

最後に職員の意識づけとして日頃不思議に思っていることを述べさせていただきますが、例として、ネームプレートの着用ですが、職員が同じ物を使われておりません。これは一つの職場（病院）として全く統一性がない中で働いている気がします。

病院の職員として採用になったときに、自分の名前がきちんと書かれたネームプレートと白衣を上司の励

ましの言葉と共に渡されて初めて、病院の職員になったという自覚と責任を持つことになるのではないのでしょうか。形から入る大切さもあると思います。

新病院に新しい風を感じる時、患者や地域住民が主人公となる風通しの良い病院に育って欲しいと思います。

## 『サハリンで見た珍しい風景』

滝本昌俊



今年8月18日から23日までサハリンへ旅行した。名寄市内のアマチュアのポピュラー音楽バンドが友好使節として市と友好関係にあるドーリング市へ派遣されたときに一緒に付いて行ったのである。去年この病院の小児科に入院したニカノフ・イワン君の診察を兼ねてサハリンの医療事情を見聞するためでもあった。

帰途、ユジノサハリンスク市で面白い光景に出会った。写真にあるような車の付いたタンクで一見清掃車のように見える。実は地場産のビール「オホーツカヤ」を計り売りで吞ませているところである。冷蔵の装置はなく、サハリンとは云え夏の暑い日射しを受けたタンクのビールは多分熱燗のついた状態だろうと思われる。サハリンでは冷蔵庫で冷やした呑み物は超贅沢品のようである。